

おわりに

1771年に発意された淡河川・山田川疏水事業とため池群、後の東播用水事業に引き継がれ維持されてきた“いなみ野”台地の水利システムは、先人たちが大切な生活基盤として今日まで守り育ててきたものです。

まさに、淡河川・山田川疏水事業は、先人の英知と苦難の連続によって実現できた“いなみ野”台地の近代化を支えた巨大事業といえます。その後も、多くの関係者がこの壮大な施設群の維持管理を継続し、先人が築き上げた財産を守り、生かし続けてきました。また、この類い希な事業の実現があったからこそ、現在の“いなみ野ため池ミュージアム”の取り組みがあります。

連綿として受け継がれるなかで時代とともに発展してきた“いなみ野”台地の水利システム、開発の歴史や文化を健全な姿として維持し先人の偉業を後世に伝え、次代の資産として引き継いでいくことが現代に生きる私たちの役割ではないでしょうか。

そして、まだまだ埋もれている情報を見出し、本書に厚みと深みを加えていきたいと考えています。今後とも、本書をご一読された皆さまから、多くのご意見や情報をいただければ幸いです。

最後になりましたが、本記録誌の編集にあたり、ご助言や資料提供を頂きました森本真一様（明治溜池研究会代表）、神岡孝也様、窪田博介様（三木市高齢者大学教務主催）、岩本泰三様はじめ多くの皆様に感謝申し上げます。

いなみ野ため池ミュージアム運営協議会
淡河川・山田川疏水記録誌編集部会



おわりに